Code Orange

―Save Life―

代表者　　綾田亮（医Ｂ４年）
構成員　　中村真（医学Ｂ６年）松隈悠（医学Ｂ６年）寺田悟（医学Ｂ６年）
永島健太（医学Ｂ５年）小川裕子（医学Ｂ５年）
古原千明（医学Ｂ５年）江見咲栄（医学Ｂ５年）
木村貴一（医学Ｂ５年）濱野弘樹（医学Ｂ５年）
孝橋信哉（医学Ｂ５年）岩橋晶子（医学Ｂ４年）
島袋太一（医学Ｂ４年）中溝一允（医学Ｂ４年）
梶間未葵（医学Ｂ４年）松尾欣哉（医学Ｂ５年）
仲田成美（医学Ｂ４年）吉村沙記（医学Ｂ４年）
下川純希（医学Ｂ４年）上原美香（医学Ｂ４年）
岡本恵（医学Ｂ４年）吉田陽（医学Ｂ４年）
木村翔一（医学Ｂ４年）田中友里（医学Ｂ３年）
岡本彩（医学Ｂ３年）森麻里母（医学Ｂ３年）
近藤萌（医学Ｂ３年）中島京（医学Ｂ３年）
縄田慈子（医学Ｂ３年）久本沙和（医学Ｂ３年）
新庄英梨子（医学Ｂ３年）瀬戸口尚登（医学Ｂ３年）
永久成一（医学Ｂ２年）田代恵莉（医学Ｂ２年）
小関元太（医学Ｂ２年）加藤優里（医学Ｂ２年）
河生多佳雄（医学Ｂ２年）浜辺龍太郎（医学Ｂ２年）
明野由里奈（医学Ｂ２年）矢田祥子（医学Ｂ２年）
佐村美穂（医学Ｂ２年）宮本翔太（医学Ｂ２年）

１．一年を振り返って

Code Orange は結成してから 4 年となり, 上級生のみであった団体から 2 年生, 3 年生の構成員の割合が増えた。4 年生以上の構成員は忙しいことも多く，活動に積極性を失いかねないと感じたため，今年度より各イベントでプロジェクトリーダー（以下，PL）を設定し，4 年，3 年から各 1～2 名選出し PL を中心にイベントの企画，準備を進めた。下半期では 2 年生も PL として参加した。低学年のうちから企画，準備の方法を知ってもらうことで積極的に新たな挑戦をすることを目標とした。一方で，上級学年は，勉強会，練習会でのアドバイスは多いものの幹部学年が終わったこともありイベントの発案は少なく積極性に欠けると感じた。

私達の活動で行ったイベントは，①対象をしぼった講習会，②フリー参加型の講習会，の 2 つに分けることができる。①では，事前に受講者の人数，情報をある程度把握し講習会を行うものである。部活動講習会では部活所属者，高校 BLS 講習会では高校 2 年生といったように，人数やニーズがある程度分かっているため予想しやすく，企画，準備が行いやすい。消防署や日赤が行う講習会は大部分がこの講習会スタイルに含まれると考えられる。②は，これまでの医学祭での心肺蘇生法講座のように，どんな人がどのくらい来るのかなど不確定な情報が多い上での講習会となる。呼び込みから，講習のタイムテーブル，インストの幅広い知識が必要になる。これら 2 つに分けて 2012 年度の活動を報告する。

２．2012 年度の活動内容

1）　6/ 25　部活動講習会＠小串キャンパス…①
2）　7/　7　七夕祭＠吉田キャンパス…②
3）　8/　5　BLS ポスター展示＆体験コーナー＠山口大学工学部オープンキャンパス…②
4）　8/ 17　高校 BLS 講習会＠山口県立下関西高等学校…①
5）　9/　1　第 1 回図書館 BLS 講習会…②

6）　ホームページ改設
7）　定期活動日の設定
8）　9/ 29　医学科フレッシュマンセミナー＜心肺蘇生法講習＞…①
9）11/ 10　医学祭（11 日まで）＜市民のための心肺蘇生法講座＞…②
10）　2/　3　FM きららカップ宇部駅伝＜自転車救急隊・心肺蘇生法講座＞…②
11）　他大学でのワークショップ参加

３．対象をしぼった講習会活動（部活動講習会，高校 BLS 講習会，医学科フレッシュマンセミナー）

3-1　部活動講習会

6 月 25 日，部活動講習会が開催され，医学部の部活動に所属する学生 58 名が受講した。構成員 16 名参加した。部活動講習会は講義と BLS 講習会の大きく 2 つに分けることができる。昨年度まで医学部学務課運営であったが，今年度より医学部学生自治体が運営するようになった。そのため，昨年までは教員が「熱中症」の講義を行っていたが，今年は構成員が「BLS」に加え，部活動中に起こり得る「捻挫・骨折」，「熱中症」について，予防・対処法の講義を行った。BLS 講習会では，受講者 6～8 名に対し，構成員 2～3 名で対応した。BLS の流れやその中でも特に重要である胸骨圧迫と AED の使用方法について詳しく説明した。講義や講習の内容・方法は，顧問である笠岡俊志先生にご指導いただき，当日も笠岡先生をはじめ山口大学附属病院先進救急医療センターの先生方に監督としてきていただいた。新しい構成員も参加しており七夕祭の前に行われるため，学外での活動前に，言葉の表現方法や指導方法などを見直す良い機会となっている。

BLS 講習会で，「上級コース」（医療従事者向け）と「初級コース」（一般市民向け）を設けたが，事前の説明不足により受講者はなんとなくコースを選択していた。そのため，受講後のアンケートでは，全体的に高評価であるものの「ニーズにあっていない」という解答がごく一部見られた（図 1）。これを踏まえ，来年度はコースの内容説明はもちろんのこと，受講者の意識を比較するため受講前にも簡単なアンケートの導入や部活動に所属していない学生にも参加を促していくことが求められる。

写真 1　講義の様子

写真 2　BLS 講習会の様子

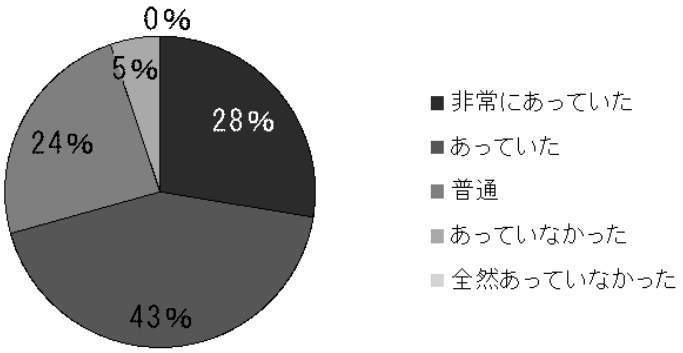

図 1　ニーズに合っていたか

3-2　高校 BLS 講習会

8 月 17 日，山口県立下関西高等学校にて，BLS 講習会を行った。構成員 7 名で高校 2 年生 22 名に対して約 1 時間半の講習会を行った。高校を訪問し，あらかじめ決まった人数を対象にした講習会は Code Orange としては初めての活動だった。「胸骨圧迫」「AED」「窒息解除」の 3 グループを作成し，各グループを約 20 分ごとに回ってもらう講習会スタイルにした。雰囲気作り，目的達成の難しさを感じた。高校生に楽しく受けてもらうにはどうしたらいいか。まずは講義をすべきか，それともまずはやってみてもらうか。対象が高校生と決まっているのであれば，もっと明確な目標を構成員で共有すべきだった。今後の高校 BLS 講習会に向けたスタートとなるイベントになった。高校生にチャーリー（FBAO 人形）は大人気である。

写真 3　高校 BLS 講習の様子

3-3　医学科フレッシュマンセミナー心肺蘇生法講習

9 月 29 日，小串キャンパスにおいて医学科 1 年生を対象とした心肺蘇生法講習を行った。フレッシュマンセミナーの中で 1 時間半という短い時間を使っての講習であり，何を重視して教えていくかがポイントとなった。前半後半に分けて約 100 名を対象に，構成員 2 名と 1 年生約 8 名のグループに分かれて成人 BLS，特に胸骨圧迫，AED について手技の獲得を目指した。目標として，医学生であるということを自覚してもらい，現場に直面した時に行動するために知識と手技を身につけてもらうことを挙げた。しかし，はじめて学ぶ 1 年生も多いため，一般市民向けの BLS の知識と手技を確認してもらうこととした。構成員の中には，初めてメインインストラクター，サブインストラクターを行う人もおり，1 時間半という短い時間の中でどうやって伝えていくかを連日練習することで本番ではとてもよい講習が行えたと感じたが，「いざというとき自信がない」というアンケート結果の受講者も多く改善が必要である。また，受講者の中でも実力差があり，ニーズが異なっていたためインストラクターはどのレベルの受講者が来ても対応できるよう勉強，練習がさらに必要になると感じた。アンケート，フィードバック，デブリーフィングを基に，来年につなげる。山口大学医学生が現場に居合わせた時自信を持って対応できることを目指す。

４．フリー参加型の活動（七夕祭，BLS ポスター展示&体験コーナー，第 1 回図書館講習会，医学祭，宇部駅伝）

4-1　七夕祭

7 月 7 日，吉田キャンパスにて七夕祭が開催され，Code Orange も共通 1 番教室を使用し，ブースを出展した。構成員 14 名が参加した。来場カードに記入したブース来場者は 62 名であった。Code Orange の大きな目標は一般市民への心肺蘇生法を含む BLS の普及である。学生のみならず，地域の方々が多く来場される七夕祭は，普及の最適な機会と言えよう。昨年同様，一般の方にも親しみやすいよう，講習会だけでなく，展示物も用意した（写真 1）。展示物の内容としては，BLS に関する簡単なクイズが主体となっており，来場者の方に付き添ってスタッフが解説し，より深い理解をしてもらうよう努めた。クイズに関しては，昨年展示したものを基盤にしつつ，難易度を少し上げたものも追加作成し展示した。さらに昨年同様，希望者に対しては，その場で個別に BLS 講習を行った（写真 2）。講習受講者は約 40 名であった。また，クイズおよび講習を受講した来場者に対してアンケートを取り，知識・理解の深まり，心肺蘇生法に対する意識の変化を調査した。有効回答数は少ないが，「心肺蘇生法を正しく行う自信はどのくらいありますか？」という問いに対し，クイズ・講習を受けた後は，受ける前と比較し「60～80％自信がある」「80～100％自信がある」の割合が大きく増加しており，講習の効果があったものと

思われる（図 1）。今回来場していただいた方は，大学生はもちろん，小学生や年配の方まで様々であった。講習に関しては，特に厳密にマニュアル化せず，担当したスタッフ本人と受講者にどういったことを学ばせるかを一任した。このため，大部分はスタッフ・受講者共に十分満足のいく講習となったようだが，中には非常に時間を取らせてしまう講習班も存在し，来年へ向けての反省点となった。そして，講習の対象が多岐になる今回のようなイベントでは，やはりそれぞれの目的や能力に合わせた講習が必要であることを構成員一同痛感した。この反省を活かし，下半期の活動に鋭意取り組んでいきたい。

写真 4　七夕祭展示物。スタッフによる解説。

写真 5　講習会の様子（左は中高生，右は小学生が受講者）

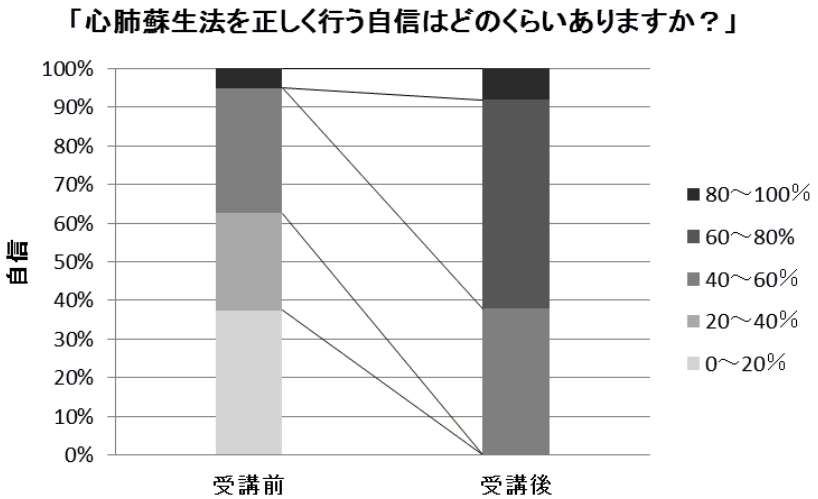

図 2　受講前後の意識の変化（有効回答数は，受講前 40 名，受講後 37 名）

4-2　山口大学工学部オープンキャンパス

8 月 5 日，山口大学工学部オープンキャンパスに参加した。おもプロブースにて，動画，ポスター展示を行った。また，BLS 体験コーナーを設置し，約 10 名が BLS 人形，AED トレーナー，FBAO 人形を使い，BLS を体験した。オープンキャンパスということから，高校生のみを想定していたが，高校の教員や近所の小中学生も来場しており準備不足を感じた。小児人形がなかったため，小学校低学年の子には成人人形は固く，胸骨圧迫が難しかったようだった。AED にとても興味を持ち，2 種類の AED を操作してもらうことができた。フリー参加型のイベントでは誰が来るかをできるだけ予想し，準備していくことが大切だと感じた。また，年齢の低い時から BLS に触れることで将来興味を持ってもらえるのではないかと考えた。健康な人に胸骨圧迫を行ってしまう事故が起こらないよう注意しながら小学生，中学生にも講習会を開いていきたい。

写真 6　ポスターで BLS の重要性を伝える

写真 7　高校生に BLS を体験してもらう

4-3　第 1 回図書館講習会

9 月 1 日，宇部市立図書館 2 階講座室にて，第 1 回図書館 BLS 講習会を行った。これまで祭りなどのイベントと同時開催してきた市民向け講習会をはじめて単独で行った（高校生対象の BLS 講習会を除く）。活動場を確保するにあたり，宇部市教育委員会の後援をいただき，図書館使用許可をもらうなど手続きに予想以上の時間を使用した。事前に講習会の開催を知らせ，受講者を募集したが応募はなく，急遽，当日はフリー参加型の講習会となった。2 階ということ，看板が分かりづらい，呼び込みができないなど多くの反省点があった。来場者は 2 名であり，広報，普及の難しさを痛感した。「まずはやってみる」ということから，普及とはなにか，まず誰を対象にするべきか，など普及，イノベーションについて考えるきっかけとなった。

写真 8　講習会会場の外観（クイズ）

4-4　医学祭—市民のための心肺蘇生法講座

11 月 10～11 日，山口大学小串キャンパスにて第 68 回山口大学医学祭が開催された。Code Orange は第 4 回となる『市民のための心肺蘇生講座』を開催し，来場者約 220 名，うち受講者約 140 名であった。講習会だけでなく，ポスターセッション，動画セッションも準備し，講習会を受ける時間がない方や親子連れでご両親はポスターだけをみるという方も来場した。1 日目は過去最大人数の受講者でしたが，2 日目は午前中天候が悪かったこともあり，来場された方少なかった。しかし，夕方には多くの来場があった。待ち時間が長くなるために全ての方に受講していただくことができず残念であった。本年度の『市民のための心肺蘇生講座』では，ポスターセッションも同時に開催することで，気軽に BLS に触れられるようにした。講習会中では説明できないこともここで補足するようにした。受講者の約 2/3 が心肺蘇生法講座の受講経験があり，昨年の『市民のための心肺蘇生講座』を受講された方もいた。受講者には，昨年に引き続き，胸骨圧迫が練習できるエコバックを配布し，同時に学習用 DVD も配布した。作成に手間取り，ぎりぎりの完成であった。返信用はがきをもちいて復習しているか調査しようとしたが，企画の段階で頓挫した。4 度目となり医学祭定番のイベントになってきたが，いかに飽きさせず定期的に心肺蘇生を勉強してもらうかを，また考えていきたい。

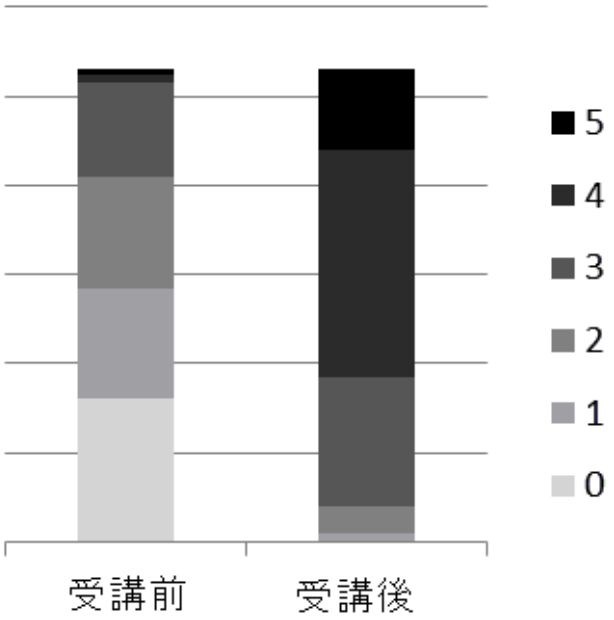

図 2　受講前後の意識の変化（5＝自信がある，0＝自信がない）

写真 9　Code Orange 集合

4-5　FM きららカップ宇部駅伝―自転車救急隊・心肺蘇生法講座

2 月 3 日，FM きららカップ第 30 回記念宇部駅伝競走大会において，自転車救急隊・心肺蘇生法普及活動を行った。駅伝の 2 週間前から，参加する 16 名のメンバーと共に，練習会を行った。練習会では，模擬講習会形式で行い，上級生，下級生の双方から意見を出し合うことでインストラクターとしての技術をメンバー同士で高め合った。また，同時期に自転車救急隊で遭遇しうるシナリオを，参加者で話し合い，実際を想定して練習を行った。当日の気候は肌寒かったが，多くの駅伝参加者，応援する方がいた。心肺蘇生普及活動としてフリー形式の心肺蘇生法講習会を行ったところ 22 名の一般の方が講習会を受講した。また，自転車救急隊の方では競技中に 1 名の傷病者がいましたが，自転車救急隊とランナーの医師の方のスムーズな対応により本部の方，救急隊に迅速に引き継げたと思う。練習会の段階で，傷病者が現れた際にどう行動するかについて論議し，参加者で共有しあったことが大きかったと感じている。反省会で出た意見を，来年の自転車救急隊に生かしていこうと思う。

５．定期活動の設定

9 月 2 週目から定期活動日を設定した。週に 1 回，昼休みに集まることでメンバーの交流，知識の共有を行おうということを目的とする。Code Orange を結成してからこれまで，イベント前などに不定期にメンバーが集まり，勉強会や練習会を行ってきた。うれしいことに構成員は増えてきた。一方で，情報共有，全員のベクトルの向きを合わせることが難しくなってきている。構成員が集まる機会を定期的に設けることで積極性を高めていきたい。第 1 回，第 2 回は「搬送法」について学んだ。搬送法を市民へ普及するわけではないが，構成員にとっては，いざという時，また講習会でインストを行う際に役立つと考えられる。というのも，講習を受講される方の中には赤十字などほかの講習会を受講されている方もおり，それぞれの講習でどんなことをしているのか把握することもインストラクトする際に必要になると考えたからだ。第 3 回は「普及というイノベーション」という題目でディスカッションを行った。普及するためにまずはどんな人を対象に活動していくべきかを考えた。そして第 4 回はさっそく 2 年生を中心に会を設けた。2 年生は「止血法」を行いたいということだったので構成員で止血法を学んだ。その後も，「小児救急」「インストラクターとは」「心停止の 4 波形」など様々な題目で定例会を行った。中でもうれしく思ったのは 2 年生がまだ学んだこともないことを上級学年に質問しながら意欲的に会を開いたことである。それに呼応するかのように 6 年生，5 年生も自ら学んだことを後輩に伝える回もあった。『全学年が参加し，企画する活動にしていきたい』と中間報告書で書かせていただいたのだが，なんとなくではあるが目指すものに近づいたと思う。これからも楽しみである。

写真 10　搬送法の実技

６．広報

Code Orange のホームページ（http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~orange/index.html）をリニューアルした。また，facebook ページも作成し，講習会の予定や，様子，写真などを発信している。大学生，社会人などが活動の様子などを見て興味を持ってくれることを願っている。この報告書に掲載してない写真も多くあるのでぜひご覧いただきたい。

７．他大学でのワークショップ参加

本年度も全国各地で BLS，ALS に重点をおいたワークショップが行われ，構成員の数名がいくつかのワークショップに参加した。各大学で行われるワークショップは医療系学生に対象をしぼった講習会であり，半日で終わるものもあれば 2 日間かけて行うものもある。BLS ワークショップについて説明すると，参加者 10 名，インストラクター30 名前後で，半日で行われる。Code Orange が行う講習会とは違い，ある程度知識のある学生を対象にしているためシナリオをもとに講習会が行われる。シナリオによる講習会は様々な状況下において傷病者に対してどう対応するかが求められるので，かなり訓練される。行く行くは山口大学でもまずは医療系学生を対象にワークショップを開催したい。また，ワークショップに中にはインストラクター向けのものもあり，どのようにインストラクトするか，参加者の手技を確認するためにどこに着目しているかなどについてインストラクター同士で意見を出しあった。このワークショップで行われたことは Code Orange が普段から行っているものが大部分であったが得るものを多くあり，構成員の能力アップには必要だと感じた。今後もワークショップに参加し，持ち帰って構成員全員の力にしていきたい。

８．総括と今後の展望

本年度は, 上半期に外部に対する新しいイベント活動をおこなった。昨年度に各イベントの質を高めるために，構成員の勉強会や練習会のために体系的なものをまとめ，また，広報活動や参加者への配布物の作成もこれまで以上に行っていた。本年度はこれらを生かし，高校，図書館で講習会を行うことに踏み切った。色々な反省点があり，落ち込むこともあったが挑戦することができよかったと思う。

今後の展望として，学内勉強会，ワークショップの開催を考えている。ワークショップ開催には多大な時間と準備が必要になると予想されるが, ワークショップの開催によって多くの医療系学生, その他学生が興味を持ち，そこから学外へアウトプットしていくことを期待している。

どんなに進化したとしても，心肺蘇生法を普及させるという信念は変わることは無い。さらなる発展を目指して，来年度も活発かつ積極的に活動を展開していきたい。